

戦略的創造研究推進事業における2026年度新規研究領域と研究総括の決定 および研究提案の募集について

JST（理事長 橋本 和仁）は、文部科学省が設定した 2026 年度戦略目標を受け、戦略的創造研究推進事業「CREST」「さきがけ」および「ACT-X」において、新たに研究領域を設定し、その研究総括を決定しました。これらの研究領域を対象として、2026 年度の研究提案募集を 2026 年 4 月 7 日（火）から開始します。

本事業は、社会・経済の変革をもたらす科学技術・イノベーションに大きく寄与する、新たな科学知識に基づく革新的技術のシーズを創出することを目的とした基礎研究を推進します。国（文部科学省）が定めた戦略目標に推進すべき研究領域とその責任者である研究総括（プログラムオフィサー）を JST が定めます。研究提案は研究領域ごとに募集し、研究総括が領域アドバイザーらの協力を得ながら選考します。

研究領域の下、「CREST」では選定された研究代表者が研究チームを編成し、研究を推進します。そして、「さきがけ」では研究者が個人で研究を推進します。また、「ACT-X」は優れた若手研究者の発掘および育成を行うプログラムで、研究総括および領域アドバイザーの助言・指導の下、若手研究者の個人研究を支援します。

なお 2026 年度の研究提案の募集は、2026 年度に発足した新規研究領域と併せて、2024 年度、2025 年度に発足した研究領域についても実施します。

今回、新たに設定する研究領域は以下の通りです。

CREST

「量子科学技術における未踏領域の開拓」（研究総括：平山 祥郎）

「革新的な超寿命マテリアルの創出とその理論的基盤の構築」（研究総括：乾 晴行）

「デジタル時空間拡張の実現に向けた技術革新と持続的価値共創」（研究総括：本村 陽一）

「感覚の理解と制御がつなぐ生体システム操作」（研究総括：古川 貴久）

さきがけ

「量子未踏領域への挑戦」（研究総括：初田 哲男）

「超寿命マテリアルの創出に向けた機構解明と技術革新」（研究総括：津崎 兼彰）

「計算科学とデータ駆動科学の融合によるデジタル時空間拡張の基盤創出」（研究総括：河原吉伸）

「外界刺激の感知機構の理解と革新的拡張技術創出」（研究総括：富永 真琴）

ACT-X

「GX 実現に資するフロンティアマテリアル」（研究総括：内田 健一）

<募集期間>

CREST：2026 年 4 月 7 日（火）～ 6 月 2 日（火）正午

さきがけ・ACT-X：2026 年 4 月 7 日（火）～ 5 月 26 日（火）正午

研究提案募集の詳細については、別紙および以下ウェブサイトをご参照ください。

URL <https://www.jst.go.jp/kisoken/boshuu/teian.html>

なお、戦略目標「生体環境インタラクション～生物とエクスポソームの相互作用の解明～」に基づく新規研究領域（さきがけのみ）を後日設定し、研究提案募集を開始する予定です。

<添付資料>

別紙：戦略的創造研究推進事業における2026年度の研究提案募集の概要

<お問い合わせ>

<事業に関すること>

科学技術振興機構 戦略研究推進部

〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's 五番町

櫻間 直行（サクラマ ノリユキ）

E-mail：rp-info@jst.go.jp ※お問い合わせは電子メールでお願いします。

<報道に関すること>

科学技術振興機構 広報課

〒102-8666 東京都千代田区四番町5番地3

Tel：03-5214-8404 Fax：03-5214-8432

E-mail：jstkoho@jst.go.jp

<科学を支え、未来へつなぐ>

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JSTは、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JSTは荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JSTは、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

戦略的創造研究推進事業における2026年度の研究提案募集の概要

1. 事業の趣旨

本事業は、日本が直面する重要な課題の克服に向けて、挑戦的な基礎研究を推進し、社会・経済の変革をもたらす科学技術・イノベーションを生み出す、新たな科学知識に基づく創造的な革新的技術のシーズ（新技術シーズ）を創出することを目的としています。

2. 事業の概要

国の科学技術政策や社会的・経済的ニーズなどを踏まえて国（文部科学省）が設定する「戦略目標」の下に、推進すべき研究領域と研究領域の責任者である研究総括（プログラムオフィサー）をJSTが定めます。研究総括は、戦略目標の達成へ向けて、科学技術・イノベーションを生み出す革新的技術のシーズの創出を目指した戦略的な基礎研究を推進します。

本事業のうち、「CREST」「さきがけ」「ACT-X」では、研究総括が研究領域を「ネットワーク型研究所」として運営します。研究領域ごとに研究提案を募集し、研究総括が領域アドバイザーらの協力を得ながら選考します。研究領域の下で、選定された研究代表者が研究チームを編成し（CREST）、または研究者が個人で（さきがけ、ACT-X）、研究を推進します。

3. 各研究タイプの概要と特徴

(1) CREST

CRESTは、日本が直面する重要な課題の克服に向けて、独創的で国際的に高い水準の目的基礎研究を推進し、社会・経済の変革をもたらす科学技術・イノベーションに大きく寄与する、新たな科学知識に基づく創造的で卓越した革新的技術のシーズ（新技術シーズ）を創出することを目的とするネットワーク型研究（チーム型）です。研究領域の責任者である研究総括が定めた研究領域運営方針の下、研究総括が選んだ、日本のトップ研究者が率いる複数のベストチームが、チームに参加する若手研究者を育成しながら、戦略目標の達成に向けて研究を推進します。

(2) さきがけ

さきがけは、日本が直面する重要な課題の克服に向けて、独創的・挑戦的かつ国際的に高水準の発展が見込まれる先駆的な目的基礎研究を推進し、社会・経済の変革をもたらす科学技術・イノベーションの源泉となる、新たな科学知識に基づく創造的な革新的技術のシーズ（新技術シーズ）を世界に先駆けて創出することを目的とするネットワーク型研究（個人型）です。研究領域の責任者である研究総括が定めた研究領域運営方針の下、研究総括が選んだ若手研究者が、研究領域内および研究領域間で異分野の研究者ネットワークを形成しながら、戦略目標の達成を目指し、若手ならではのチャレンジングな個人型研究を推進します。

(3) ACT-X

ACT-Xは、日本が直面する重要な課題の克服に向けて、優れた若手研究者を発掘し、育成することを目的とするネットワーク型研究（個人型）です。研究総括が定めた研究領域運営方針の下、独創的・挑戦的なアイデアを持つ研究者を見いだし、科学技術・イノベーションにつながる新しい価値の創造を目指した研究を行うことを支援し、研究総括および領域アドバイザーの助言・指導の下、若手研究者が独自のアイデアからなる研究を進め、研究領域内外の異分野の研究者と相互触発することで、研究者ネットワークを形成しながら研究者としての個を確立することを目指します。

4. 各研究タイプの研究費や研究期間など

研究タイプ	研究期間内の研究費総額	研究期間
CREST	1.5～5億円	5年半以内
さきがけ	3～4千万円	3年半以内
ACT-X	4.5～6百万円程度 (加速フェーズ ^注)：最大1千万円)	2年半以内 (加速フェーズ：さらに1年以内)

注) 加速フェーズ：ACT-Xの研究期間は2年半を標準としますが、採択された研究者が希望する場合は、その後に加速フェーズと呼ばれる追加支援を受けられる可能性があります。加速フェーズの支援を受けられる課題数、研究費は研究領域ごとに設定します。

5. 研究提案を募集する研究領域

研究提案を募集する研究領域は以下の通りです。2026年度の研究提案の募集・選考は、2026年度に発足する新規研究領域のほか、2024年度、2025年度に発足した研究領域も行います。各研究領域の概要や募集方針、運営方針は、以下ウェブサイトの「提案を募集する研究領域」よりご確認ください。

URL <https://www.jst.go.jp/kisoken/boshuu/teian.html>

CREST

2026 年度発足研究領域

戦略目標	研究領域	研究総括
基礎量子科学技術研究がドライブする量子未踏領域の開拓	量子科学技術における未踏領域の開拓	平山 祥郎 (量子科学技術研究開発機構 SIP 推進センターセンター長/東北大学 名誉教授/同 先端スピントロニクス研究開発センター 特任研究員)
持続可能社会につながる超寿命マテリアルの創出	革新的な超寿命マテリアルの創出とその理論的基盤の構築	乾 晴行 (京都大学 名誉教授)
デジタル時空間拡張	デジタル時空間拡張の実現に向けた技術革新と持続的価値共創	本村 陽一 (産業技術総合研究所 人工知能研究センター 首席研究員)
拡張五感と認知	感覚の理解と制御がたぐ生体システム操作	古川 貴久 (大阪大学 蛋白質研究所 教授・副所長)

2025 年度発足研究領域

戦略目標	研究領域	研究総括
ゆらぎの制御・活用による革新的マテリアルの創出	ゆらぎの導入・制御による機能性材料の創製	佐々木 高義 (物質・材料研究機構 名誉フェロー)
実環境に柔軟に対応できる知能システムに関する研究開発	実環境知能システムを実現する基礎理論と基盤技術の創出	尾形 哲也 (早稲田大学 理工学術院 教授/AI ロボット協会 理事長)
安全かつ快適な“人とAIの共生・協働社会”の実現	人とAIの共生・協働社会を実現する学際的システム基盤の創出	和泉 潔 (東京大学 大学院工学系研究科 教授)
超生体組織創出への挑戦	異分野融合による超生体組織の創製と新機能の創出	秋吉 一成 (京都大学 高等研究院 物質-細胞統合システム 拠点 特定拠点教授)

2024 年度発足研究領域

戦略目標	研究領域	研究総括
新たな社会・産業の基盤となる予測・制御の科学	予測・制御のための数理科学的基盤の創出	小谷 元子 (理化学研究所 領域総括/同 開拓研究所 所長/同 数理創造研究センター チームディレクター)
持続可能な社会を支える光と情報・材料等の融合技術フロンティア開拓	光と情報・通信・センシング・材料の融合フロンティア	中野 義昭 (豊田工業大学 学長)
選択の物質科学～持続可能な発展型社会に貢献する新学理の構築～	材料創製および循環プロセスの革新的融合基盤技術の創出とその学理構築	岡部 朋永 (東北大学 大学院工学研究科 教授/同 グリーン未来創造機構 グリーncrossステック研究センター長)
「生命力」を測る～未知の生体応答能力の発見・探査～	革新的な計測・解析技術による生命力の解明	水島 昇 (東京大学 大学院医学系研究科 教授)

さきがけ

2026 年度発足研究領域

戦略目標	研究領域	研究総括
基礎量子科学技術研究がドライブする量子未踏領域の開拓	量子未踏領域への挑戦	初田 哲男 (理化学研究所 数理・計算・情報科学領域 領域総括)
持続可能社会につながる超寿命マテリアルの創出	超寿命マテリアルの創出に向けた機構解明と技術革新	津崎 兼彰 (物質・材料研究機構 名誉フェロー)
デジタル時空間拡張	計算科学とデータ駆動科学の融合によるデジタル時空間拡張の基盤創出	河原 吉伸 (大阪大学 大学院情報科学研究科 教授)
拡張五感と認知	外界刺激の感知機構の理解と革新的拡張技術創出	富永 真琴 (名古屋市立大学 なごや先端研究開発センター 特任教授)
生体環境インタラクション～生物とエクスポソームの相互作用の解明～	調整中	調整中

2025 年度発足研究領域

戦略目標	研究領域	研究総括
非連続な技術革新を目指す量子マテリアル研究	量子物質	齊藤 英治 (東京大学 大学院工学系研究科 教授)
ゆらぎの制御・活用による革新的マテリアルの創出	ゆらぎの理解と制御による材料革新	常行 真司 (東京大学 大学院理学系研究科 教授/理化学研究所 最先端研究プラットフォーム連携事業本部 プログラムディレクター)
実環境に柔軟に対応できる知能システムに関する研究開発	実世界知能システムの基盤創出	原田 達也 (東京大学 先端科学技術研究センター 教授)
安全かつ快適な“人とAIの共生・協働社会”の実現	人とAIの共生・協働社会を構成する要素研究と基盤技術の創出	山下 直美 (京都大学 大学院情報学研究科 教授)
超生体組織創出への挑戦	多細胞動態の理解と制御による超生体組織の創出	永樂 元次 (京都大学 医生物学研究所 教授)

2024 年度発足研究領域

戦略目標	研究領域	研究総括
自律駆動による研究革新	AI・ロボットによる研究開発プロセス革新のための基盤構築と実践活用	竹内 一郎 (名古屋大学 大学院工学研究科 教授/理化学研究所 革新知能統合研究センター チームディレクター)
新たな社会・産業の基盤となる予測・制御の科学	未来を予測し制御するための数理を活用した新しい科学の探索	荒井 迅 (東京科学大学 情報理工学院 教授)
持続可能な社会を支える光と情報・材料等の融合技術フロンティア開拓	光でつなぐ情報と物理の融合分野の開拓	川西 哲也 (早稲田大学 理工学術院 教授)
選択の物質科学～持続可能な発展型社会に貢献する新学理の構築～	材料の創製および循環に関する基礎学理の構築と基盤技術の開発	北川 進 (京都大学 高等研究院 特別教授)
「生命力」を測る～未知の生体応答能力の発見・探査～	時空間マルチスケール計測に基づく生物の復元あるいは多様化を実現する機構の解明	上村 匡 (京都大学 名誉教授)

ACT-X

2026 年度発足研究領域

戦略目標	研究領域	研究総括
持続可能社会につなげる超寿命マテリアルの創出	GX 実現に資する フロンティアマテリアル	内田 健一 (物質・材料研究機構 磁性・スピントロニクス材料研究センター 上席グループリーダー／東京大学 大学院新領域創成科学研究科 教授)
非連続な技術革新を目指す量子マテリアル研究		
ゆらぎの制御・活用による革新的マテリアルの創出		
選択の物質科学～持続可能な発展型社会に貢献する新学理の構築～		

2025 年度発足研究領域

戦略目標	研究領域	研究総括
超生体組織創出への挑戦	生体機能の理解と デザイン	伊川 正人 (大阪大学 微生物病研究所 教授)
「生命力」を測る～未知の生体応答能力の発見・探査～		
革新的な細胞操作技術の開発と細胞制御機構の解明		
老化に伴う生体ロバストネスの変容と加齢性疾患の制御に係る機序等の解明		
『バイオ DX』による科学的発見の追究		
ヒトのマルチセンシングネットワークの統合的理解と制御機構の解明		
革新的植物分子デザイン		
細胞内構成因子の動態と機能		

2024 年度発足研究領域

戦略目標	研究領域	研究総括
自律駆動による研究革新	生命と情報	杉田 有治 (理化学研究所 開拓研究所 主任研究員 ／東京大学 大学院理学系研究科 教授)
「生命力」を測る～未知の生体応答能力の発見・探査～		
革新的な細胞操作技術の開発と細胞制御機構の解明		
老化に伴う生体ロバストネスの変容と加齢性疾患の制御に係る機序等の解明		
『バイオ DX』による科学的発見の追究		
ヒトのマルチセンシングネットワークの統合的理解と制御機構の解明		
革新的植物分子デザイン		
細胞内構成因子の動態と機能		
持続可能な社会を支える光と情報・材料等の融合技術フロンティア開拓	AI 共生社会を拓くサイバーインフラストラクチャ	下條 真司 (青森大学 ソフトウェア情報学部 教授)
新たな半導体デバイス構造に向けた低次元材料の活用基盤技術		
Society 5.0 時代の安心・安全・信頼を支える基盤ソフトウェア技術		
情報担体と新デバイス		
最先端光科学技術を駆使した革新的基盤技術の創成		
次世代 IoT の戦略的活用を支える基盤技術		
Society 5.0 を支える革新的コンピューティング技術の創出		

6. 募集期間

CREST : 2026年4月7日（火）～6月2日（火）正午
さきがけ・ACT-X : 2026年4月7日（火）～5月26日（火）正午

7. 研究提案の受付方法

2026年度の応募は「府省共通研究開発管理システム（e-Rad）」により受け付けます。
府省共通研究開発管理システム（e-Rad）ポータルサイト
URL <https://www.e-rad.go.jp/>

8. 研究提案募集に関するお問い合わせ先

科学技術振興機構 戦略研究推進部
〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's 五番町
櫻間 宣行（サクラマ ノリユキ）
E-mail : rp-info@jst.go.jp（2026年9月30日まで）
※お問い合わせは電子メールでお願いします。

以上